

第2期第5回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年8月29日（金）14:00～16:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階視聴覚室

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、押村宙枝、佐合昭浩、辰巳厚子、
富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子
以上 11名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、松田事業係長、村田担当係長、
齋藤担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕岩本陽児、太田美帆、菅谷万里子、花田英樹

〔傍聴人〕1人

〔資 料〕・第5回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 変更案
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会意見
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会委員 事業評価担当の順番
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料1～資料11
- ・生涯学習センター貸出ロッカー 抽選要領（資料12）
- ・第5回町田市生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告3
- ・2014年度東京都公民館連絡協議会 委員会部会第1回研修会（交流研修会）記録

<協議事項>

1、2014年度生涯学習センター事業の企画について

（1）生涯学習ボランティア企画 1日体験講座

事務局：生涯学習ボランティアバンクを多くの方に知っていただき、利用いただくため、定期的を実施している。2013年度までは登録者全員に依頼していたが、2014年度は部屋の空き状況等の関係で、これまでお願いしていなかった方を中心にお声掛けさせていただき、全部で14講座を実施することになった。今回お願いできなかった方達については次回以降声かけをしていく。

（意見・質問）

委 員：講座を行っていただく登録者についての情報はるか。

事務局：講師の氏名は掲載するが、詳細情報については掲載しきれない。

委 員：14講座の実施とのことだが、それ以外で講座をやりたいという希望はあったか。

事務局：1、2件程度お話をいただいた。

（2）市民企画講座「ロコモ体操～百まで歩ける足腰づくり～」

事務局：市民企画講座として5つのテーマについて募集を行い、企画団体を決定した。そのうち3つを10月に実施する。主に講座・講演会の充実や、市民団体の学習成果の活用を目的としている。ロコモ体操については、高齢期をテーマとしている。

（意見・質問）

なし。

（3）市民企画講座「健康応援！詩吟体験講座」

事務局：文化・芸術をテーマとして、詩吟体験講座を詩吟愛好会の企画で行っていただく。

（意見・質問）

なし。

（４）乳幼児の保護者のための講座Ⅱ「こころがかるくなるキラキラ子育て」

事務局：２０１４年度で２回目の乳幼児の保護者を対象とした講座である。第１回目は６・７月に実施し、定員２０名のところ応募が３２名あり、非常に人気の高い講座となっている。前回までの違いとして、今回は生涯学習センター主催ではなく、家庭教育支援学級の中の「キラキラmamaになろう」という団体が中心となり企画をしていただいた。当該団体は過去に乳幼児講座を受講した卒業生の団体で、実際に自分達が受講してよかったものを中心に企画いただいた。

（意見・質問）

委員：周知方法にチラシとあるが、チラシは講座の特色を直にアピールできる良いチャンスなので、前年度のチラシも参考にしながら工夫していけると良い。また、企画の段階で可能であればチラシも併せて提示いただきたい。

（５）小学生の保護者のための講座「子どもの健やかな成長のために」

事務局：子どもの年齢に応じて講座を分けている。対象が小学生ということで、具体的な学年までは絞っていない。受講される方には就学前のお子さんを持つ方も、高学年のお子さんを持つ方もいらっしゃる。併せて、中学生の保護者のための講座も行うが、まだ中学生ではないお子さんを持つ方も受講される。こちらで対象を絞るというよりは、保護者の方に選んでいただき、複数の受講もある程度視野に入れて組み立てている。２０１４年度は、現場でお子さんや保護者と接している機会が多い方を中心に講師を依頼している。また、町田市で食育推進計画を策定したこともあり、庁内連携を意識して、食をテーマにした講座も組み込んでいる。

（意見：質問）

委員：少し対象が広すぎると感じる。せめて小学校低学年と高学年など、ある程度は絞ったほうがよいのではないかと。

事務局：企画段階では低学年向けと高学年向けで分けて実施することも検討したが、高学年向けと中学生向けの差別化ができず、テーマも類似したものになってしまうため、対象を限定しなかった。講師の方にはどの学年でもある程度当てはまるようなお話をさせていただくよう依頼している。今後は受講者の声も聞きながら検討していく。

委員：あまり対象を広げすぎても盛りだくさんすぎるので、どの学年にも当てはまるテーマについては２回行い、やはり学年で講座を分けるべきではないかと。

委員：携帯電話やインターネットのように、低学年では早いと思われるテーマでも、いずれは必要になる知識なので聞いて損はないと思う。コミュニケーションや食育についても、成長するにつれ難しい問題にはなるが、幼いうちから基盤をつくるのが大事だと思うので、全学年に当てはまると考えている。ただ、小学校という場にまだ不安をもっている低学年の保護者の参加が多くなるのではないかと感じている。

委員：ワークショップとはどのようなものか。

事務局：初回については肩の力を抜くようなグループワークができればと思っている。また、３回目については２０１３年度に引き続き、教育センターの職員を講師として、参加者同士の交流の機会を多く設けたい。

（６）シニア世代のための子育て支援講座

事務局：家庭教育支援事業として実施するもので、これまでは現在子育てをしている方を対象に行ってきたが、今回は子育てを終えられた方が地域の家庭教育や子育ての問題に対し、何ができるかを考えていただく講座である。この講座についても、家庭教育支援学級に参加されている「コーディネーターのまなび」というグループに企画いただいている。実際に子育て世代がどのような問題を抱えているかを把握した上で、シニア世代の方たちには何ができるかを考えていく。そこから実際の活動に繋がったり、参加者同士でグループを作り、継続的な学びに繋がればと考

えている。

(意見・質問)

- 委員：玉川学園地区では、共働きやシングルマザーの方などで、仕事で保育園の引き取りに間に合わない場合、地域のシニアの方たちに一時的に子どもを預かれないかという話が出ている。シニア世代も子育てに関わる機会はまだまだあると思うので、この講座は非常に興味深い。
- 委員：最近では孫とうまく接することができないという問題を抱えるシニア世代が増えている時代なので、大変良い企画だと思う。
- 委員：講師は何を専門にされている方なのか。
- 事務局：桜美林大学の宍戸佳子氏についてはボランティア活動や地域活動を中心に、相模女子大学の久保田力氏については子ども教育学部の先生で、家庭教育を専門にされている方である。
- 委員：自分の孫とうまく付き合いたい方や、地域の子供達と関わりたい方など、目的によって講座の内容も多少違ってくる。今後は受講者の目的も把握できれば更に良い講座になるのではないか。
- 委員：受講者が次の活動へ繋げていくような講座であれば、地区ごとに開催するなど、もう少し限定的に行ったほうが良いと思う。地区ごとに行えば、地域での活動グループも作りやすく、連携もしやすい。そういった活動が少ない地域で講座を行ってほしい。
- 事務局：企画段階でも、受講者の目的が何層もあるなかで、どこを目指すのかという議論はあった。初回については、自分と孫という身近なテーマをとりあげることで、まずは敷居を下げて様子を見ながら、次回以降は受講者のニーズに合わせて検討していきたい。
- 会長：次年度同様の講座を実施する際、この場で行った議論を視覚化しておく、次回の企画がスムーズに進む。事業評価シート上に記入しておけると良い。

(7) 市民企画講座「女も男も、ともに生きやすい社会をめざして！」

事務局：人権をテーマに、男女平等についての講座を、まだ「女性プラン」を考える会の企画で行っていただく。

(意見・質問)

- 委員：ジェンダーやフェミニズムを取り上げるということで、女性の参加者が大半だと考えられる。男性も参加しやすいよう広報等の工夫を考えるとあるが、具体的にはどのような工夫をさせるのか。
- 事務局：後半で「男の家事・女の家事」や、「男も仕事を辞めて親の介護」というテーマも取り上げるので、男性も意識した講座であることを積極的にPRしていく。
- 委員：講師にファザリングジャパンの方を招いているが、ファザリングという言葉をわかりやすく解説したり、キャッチコピーをもう少しアピールすれば男性も参加しやすいのではないか。

2、事業評価について

(1) 環境学習「ミヤマ☆仮面が今年もやってくる！！」

事務局：子どもを対象とした環境・自然共生課との共催事業である。33名の応募があり、当日は町田保育園から17名の園児に来ていただいた。寸劇やクイズなどのショー形式で行い、子どもたちの満足度や学習効果をより高める講座になった。また、この事業を通し、庁内連携を図ることができた。

(意見・質問)

- 委員：事業評価シートの「課題」の欄にもあるが、中心街である生涯学習センターよりも、地域で行ったほうが徒歩や自転車で気軽に行けるので、子どもたちも参加しやすい。2013年度は子どもセンター鶴川で行ったということなので、2013年度と2014年度の結果を比較し、2015年度は地域センター等で行うことも検討していただきたい。
- 事務局：近隣の町田保育園には参加いただけたが、地域性の課題はあるので、全体を見ながら地域への周知を積極的に行っていきたい。
- 委員：環境自然共生課主催とのことだが、毎年実施する地域を変え、各地域の自然環境を活かしながら行っていくのも良いと思う。

事務局：課題もあったが、参加者に平和祈念展や子ども週間のチラシを配布することで、継続的にセンターを利用いただくきっかけにもなり、収穫もあった。

(2) 乳幼児の保護者のための講座「心をつなぐ ふれ愛子育て」

事務局：今回は出席率が非常に高く受講率は89%となった。最後に同窓会を行ったが、受講者の中には、今度は自分も講座の企画をしてみたいという声もあがり、次の展開にも繋がる良い機会になったと感じている。

(意見・質問)

委員：先ほど企画にあった「こころがかるくなるキラキラ子育て」とはどのような違いがあるのか。

事務局：「キラキラmamaになろう」という団体が、過去に乳幼児講座を受講し、その後家庭教育支援学級に参加し、「こころがかるくなるキラキラ子育て」講座を企画した。それに対し、この乳幼児講座は生涯学習センターの職員側で企画したものである。一部同様のテーマがあるが、これは企画団体が過去に受けた乳幼児講座で来ていただいた講師と同じ方に依頼しているためである。

(3) 今年はササッと！浴衣美人。みんなで夏の着付け講座

事務局：2013年度は参加者が少なく、評価も縮小だったが、2014年度は2回行ったうち、定員各15名、計30名のところ、応募28名、参加者各回13名の計26名と、前年を大きく上回った。前年度評価が縮小のDにも関わらず今年度も実施した理由としては、生涯学習推進計画の重点事業として、若年層に対する学習機会の充実を掲げていることと、関係機関と連携した学習機会の充実を目的としていたため、企画した。PRについては109MACHIDAの店舗にも協力をいただき、若者の集客が得られた。また、関係機関の連携という面でも効果があったと感じている。課題としては、単発の事業だけでなく、今後いかに若者に対してアプローチを続けていくか工夫していく必要がある。

(意見・質問)

委員：当日花火大会があったとのことだが、どこであったのか。

事務局：厚木や板橋等数箇所で行われていた。アンケート結果から、受講後そのまま浴衣を着て花火大会へ行くという方が半数いた。

委員：男性は受講できなかったのか。

事務局：今回は会場の関係もあり、女性限定とさせていただいた。

会長：前年度と比べ受講者が増えた理由としてはどのようなことが考えられるか。

事務局：前年度は通常通り広報やホームページで周知を行っていたが、若者はあまり広報を見ないのではないかということから、今年度は109MACHIDAの店舗にポスターを貼ったところ、それを見て参加したという方が大半だった。

委員：今後はどのような若者向けの企画を考えているか。

事務局：すでに企画が決まっているものは、毎年行っているもので、近隣大学や109MACHIDAと連携して、まちコレというファッションイベントを冬に行う予定である。それ以降については、具体的には決まっていないが若者向けの連続講座も行っていきたいと考えている。

委員：公平性と市の事業としての妥当性がBになっているのはなぜか。

事務局：公平性については、今回は女性限定で行ったが、男性も参加したかったという声があつたことと、若者向けの講座ということで、対象を限定的にしたため、Bにした。また、妥当性については、関係機関の連携という点では妥当だと考えるが、市の事業ではなくても浴衣の着付けは行っているため、十分妥当とはいえないと判断した。

委員：2013年度実施時にも男性の問題は出ていた。会場の関係もあると思うが、次年度以降も継続して行う事業であれば、会場の工夫等前向きに検討されてはどうか。

委員：実施上の留意点に「アンケートや聞き取りなどを行うことで、若年層の学習ニーズを把握するための機会とする」とあるが、今回のアンケートのなかで何か得られるものはあったか。また、若者自身が企画する講座があっても良いのではないか。

事務局：まちコレについては学生主導で進めており、今後も若者が企画に携われる機会を生涯学習セン

ターでいかに行っていくかが課題と考える。アンケートについては、興味のあるテーマを問う質問に対し、圧倒的に料理という回答が多かった。この結果も参考にし、今後取り入れていければと考えている。

3、生涯学習センターロッカー抽選会の立会いについて

事務局：2年に1度、生涯学習センターのロッカーを利用団体に貸し出しており、その抽選会に運営協議会委員2名の立会いをお願いしたい。2014年度は9月5日午後2時から、生涯学習センター学習室1、2で行う。ロッカーは小130個、大56個あり、現時点で応募数が上回っているため、抽選となる。

→小川副会長、富川委員を立会人に選任する。

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

事務局：「発見！新しいアジア」について、初回に取り入れた調理、映像や写真を用いた工夫が参加者から好評であった。他の講座と重複しないよう留意し、市民に興味を持っていただくテーマを選定できるよう努めていく。

「タンゴトリオによる情熱のアルゼンチンタンゴ」については、魅力的な文化・芸術鑑賞の機会を提供する目的は達成されたが、これに満足することなく、課題を整理し、改善しながら事業の実施を図っていく。

「くるくるロケット」については、参加者の要望に応え、2歳児以上を対象とする事業を継続的に行うための試みとして実施し、参加者からの満足度は高かった。課題を整理し、内容や運営手法を固めていく。

(2) センター長報告

8月28日から10月6日まで、2014年度第3回町田市議会定例会が行われている。一般質問の内容は市議会ホームページに掲載されるので、詳細はホームページをご覧ください。

また、8月2日から8月10日まで、生涯学習センターにて平和祈念展を行った。参加者は961名で、前年度と比べ60名の増加となった。紙芝居の日は近隣の町田保育園の園児たちにお散歩の際立ち寄っていただいた。今後も事業を行う際は、近隣の保育園等に声かけをしていきたい。

(3) 東京都公民館連絡協議会について

委員：2014年度第1回研修会が7月19日に開催された。今回のテーマは「公民館の活性化」、更に限定して「まつりの活性化」について検討した。グループ討議の後発表を行い、最後に講師の上田幸夫氏のまとめがあった。公民館、生涯学習センターとして、個別の課題をどう捉えていくかのヒントが得られた。非常にためになる研修会だった。

<今後の運営について>

会長：生涯学習NAVIに提出した原稿を資料として配布した。生涯学習NAVIを通して、市民に生涯学習センターの活動内容を知っていただくとともに、この運営協議会でこれまでやってきたこと、これからやるべきことを、我々のなかでもコンセンサスを持つため、まとめた。

2期目である2014年度は、事業評価シートについて、アンケート結果等を可視化し、次回の事業に受け継ぐよう見直しを行うことと、日々変化していくニーズを考え、若年層を含むあらゆる世代の学習機会に対応するよう、生涯学習のあり方を再検討しながら、各講座の第三者評価を行っていく。また、公民館と市民大学のメリットを併せ持った事業の展開を検討していきたい。また、単に生涯学習の場を提供するだけでなく、その後の活動も注意深く見守っていくことも大切だと考えている。生涯学習推進計画に基づき、規定の中で運営協議会としてできることを再定義させていただいた。続いて、当日配布資料の「2014年度生涯学習センター運営協議会意見」について、これまであげられた問題・課題について、辰巳委員にまとめていただいた。

- 委員：これまで出された意見を大きく8つに分けている。最も意見が多かったのが事業評価についてである。評価指標そのものについてや、評価がどのように反映されているか、運営協議会での時間配分等について主に挙げられている。個別の事業についての意見もいくつかあるが、この運営協議会は設置要綱に基づき、第三者評価をする機関であるということから、事業評価のあり方から検討していくべきではないかと考えている。個別評価だけでなく、全体図・マトリクスに見える化も含め議論したい。
- 副会長：会長が書かれた原稿の内容が、全ての基本になっていると考える。我々はこの基本理念に基づき、生涯学習センターを発展させていきたい。委員の意見が余りにも分散していると、どこを目指すのかを見失ってしまう。まずは事業評価シートについて検討したい。
- 委員：会長の原稿に書かれている内容は生涯学習センターの目指すべき理念だと考えるが、そのなかで運営協議会はどのような役割を持つのかという部分にもう少し触れてほしい。やはり設置要綱を遵守しながら、市民の代弁者として、事業評価を通じ、市民の意見を生涯学習センター事業に取り入れていくことが我々の大きな役割だと考えているので、テーマとして事業評価の改善に取り組むことは賛成である。
- 会長：規定のなかでは事業評価について重きを置かれているが、もう少し議論を拡大したいという思いがある。事業そのものや参加者のニーズや多様性を考えると、生涯学習のあり方からチェックしながら評価をしていくのが我々の役割だと考えている。あくまでも次への改善に繋がるための評価のあり方を検討していきたい。
- 委員：事業評価で出された意見が蓄積され、それがどのように処理されたのか知りたい。
- 事務局：例えばコンサート事業については運営協議会で出た意見をかなり反映し、改善されていると考える。改善された点を事業評価シートへどのように落としこむかは検討したい。
- 事務局：委員の皆さんからいただいた意見は確実に次の事業へ反映されているが、どのように改善されたかが事業評価シートでは見えづらい。評価の可視化についてはご意見をいただきながら少しずつ変えていきたい。
- 会長：評価シートへ過去に出た意見を可視化することで事業評価自体のあり方も見えてくる。テーマごとに部会を作るという案も以前出ていたと思うが、当面はこの場で議論し、全員で同じ問題意識を持っていきたい。事業評価についての議論の後、市民大学についても議論できればと考えている。プログラム委員の方には市民大学のために大変ご尽力いただいているが、事業全体で見たとき、なかなか連携ができていない。公民館と統合し、生涯学習センターになったことでのメリットも含め考えていきたい。
- 委員：生涯学習推進計画の体系図を紙で張り出し、個別の事業ごとに計画のなかで該当する箇所へ1つ1つ当てはめていけば、かなり可視化ができる。まずは次回、できることからやっていきたい。
- 委員：単に早く進めれば良いのではなく、1つ1つ議論をつめていくことで、必ず成果が出ると考える。2期目からこの運営協議会委員に就任したが、1期目の成果が少しずつ出ているのではないか。
- 事務局：事業評価シートの可視化についていくつかご意見をいただいたが、改善にあたり可能であればシートのたたき台をいただきたい。
- 委員：まずは事業評価シートについてブレインストーミング形式で意見を出し合い、その後たたき台を作成したい。
- 会長：次回、事業評価シートについての意見を各委員で持ち寄り、集約する。
- 事務局：事前に事業評価に関するご意見をいただくと議事がスムーズに進むので、ご協力いただきたい。

<その他>
なし。